

平成 29 年 9 月 27 日

第 3 回 黒磯地区交流拠点づくり構想策定検討委員会 意見要旨

■日時 平成 29 年 9 月 27 日（水）

■場所 岩国市役所 5 階 51、52 会議室

■協議事項

- (1) まちづくりの基本方針について
- (2) 導入機能及び施設構成の検討について
- (3) 土地利用計画の検討について

■主な意見要旨

—まちづくりの基本方針について—

〈委員〉

- ・ 資料 2 ページのまちづくりの将来像として、「誰もが支え合う地域支援と交流のまち」とあるが、「誰もが」という表現が気になる。将来像の表現としては「市民が」や「皆が」、「市民皆が」等が良いのではないか。

〈委員〉

- ・ 資料 1 ページの導入機能の方針における「働きながら子育てしやすい環境づくり」の方針を踏まえると、この黒磯地区のまちづくりでは、地域、又は子育てをする前段階の人なども含めて、子育てへの関心を育み、「誰もが支えあう」社会を目指すものと解釈することができるため、この表現が良いと思う。

〈委員〉

- ・ 資料 2 ページの基本理念において、「高齢者や障害者の方が社会の一員として活躍できる場所を創出します」という表現があり、「誰もが」という意味が込められており、踏み込んだ表現で良い。

〈委員〉

- ・ 議論をまとめると、「誰もが支え合う地域支援と交流のまち」で良いと思われる。

—導入機能及び施設構成等の検討について—

〈委員〉

- ・ 様々な国や地域の方々が施設を利用することを想定し、対応を考えなければならない。生活習慣の違いを考えると、和式トイレは利用できないが、畳の部屋で日本の文化に触れてもらう等の視点がある。また、施設内で英語表記やピクトグラムを利用する等、施設イメージから求められる対応を整理する必要がある。
- ・ 外国人の方が岩国の地域文化に触れる事を想定しても良いのではないか。逆に市内の方も、地域の文化に詳しくないケースも多いため、知ってもらう場としても良いと思う。

〈委員〉

- ・ 施設内に英語を取り入れるだけでも、文化交流に繋がると思う。

【事務局】

- ・ 来年度、再来年度に、施設の基本計画、基本設計を実施する予定としている。そのなかで、文化の交流、日本人も外国人も訪れやすい配置や表記等を検討していきたい。

〈委員〉

- ・ 愛宕山運動施設では、バーベキュー等を通じて米軍人との交流ができるようになると聞いている。市内の他の施設との関係性も踏まえ、黒磯地区に何が必要かを絞り込んで検討していくことが重要と考える。

【事務局】

- ・ 愛宕山運動施設でも交流機能をもった施設が整備されるが、主にスポーツを通じた交流施設となる予定である。愛宕山地区や黒磯地区での交流をそれぞれイメージしながら検討していきたい。

〈委員〉

- ・ 昔は近所に米軍人の方が多く住んでいたが、現在では基地の中に住んでおり、市民と米軍人の方とふれあえる場面が無くなってきた。日常的にふれあえる交流の場を検討しなければならない。

〈委員〉

- ・ 福祉交流施設の利用については、障害者や高齢者の交通手段も考えていく必要がある。駅等の施設も含めて、多くの方が通える手段を検討する必要がある。

〈委員〉

- ・ 施設が整備されても交通手段がないと施設に訪れる人は限られる。黒磯地区は、国道 188 号からの進入は踏切を越えなければならず、渋滞も発生しやすい場所である。岩国南バイパスの南伸もお願いしているが、時間はかかると思う。

【事務局】

- ・ 交通アクセスは重要だと考えており、区域内だけでなく、外側からの視点を含めて検討していく必要がある。

〈委員〉

- ・ どのくらいの利用者が見込めるかイメージが湧かず、イベントがない時は閑散としてしまう懸念がある。施設も中途半端なものだと魅力がなく、利用者が少ない利用しづらい施設になってしまう。

〈委員〉

- ・ 米軍人やその家族等にも訪れてもらうためには、ありきたりの施設ではなく、目玉になるハードやソフトを用意しなければならない。

〈委員〉

- ・ 岩国市には約 80 団体のボランティア団体がある。各団体は高齢化しており、ボランティア人材育成の場としての施設は重要である。
- ・ 以前、市内の災害時には、米軍の方が災害ボランティアに参加された実績がある。災害時や、それ以外のボランティア活動においても日米の交流が盛んになると期待できる。

〈委員〉

- ・ 検討しているような施設は、交通の便利な場所や、利用者が見込める都市部に整備すべきではないかとの懸念はある。黒磯地区は土石流の課題もあり、公園等として整備するほうが良いのではないかな。

【事務局】

- ・ 都市計画においても、コンパクトな「まちなか居住」の流れになっており、人口が減少していくなかで、既存の社会資本を活かすことが求められている。しかし、黒磯地区の計画地以外に、まとまった場所をまちなかに求めることは難しく、有効活用を考えて、検討を進めている。交通アクセスを含め、多くの人や様々な世代の方が訪れやすい環境を整えることが必要と考えている。

—土地利用計画の検討について—

〈委員〉

- ・ これから検討される施設配置について、計画地は段差がある場所なので、例えば、東側は下の層から、西側は上の層から入ることができる建物であれば、傾斜地をそのまま利用できる。こうした施設配置は、海からは施設が見えるが、周囲の住宅地からは広場にしか見えない。なだらかな景観を活かした施設設計であれば周囲と調和しやすい。そのような視点で施設配置を整理してはどうか。

〈委員〉

- ・ 眺望の確保、施設周囲の緑地の配置、計画地内の河川の整備等を検討していく必要がある。

【事務局】

- ・ まちづくり構想の段階では、現況地形を踏まえ、施設のレイアウトや規模感を検討できればと考えている。なお、次年度以降も施設計画や設計を実施する予定としており、段階に応じて修正を図っていくこととしている。

以上